

兵庫・安倉南遺跡
あくらみなみ

- 1 所在地 兵庫県宝塚市安倉南一丁目
- 2 調査期間 一九九五年(平7)十一月、十二月～一九九六年三月

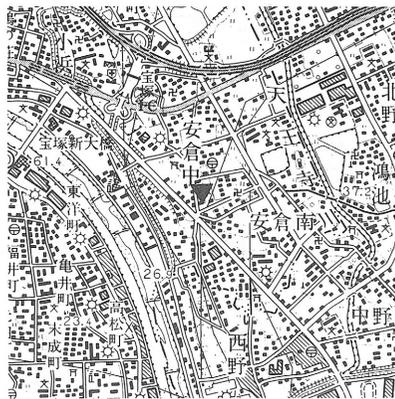
3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

4 調査担当者 山本高照・北原 治・中村 弘

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 平安時代末～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪西北部)

調査は阪神淡路大震災復興に伴うもので、調査方法については遺跡が破壊される部分のみの調査となり、調査区は一〇本のトレンチ状となった。よって、遺跡の全体は把握できていない。

検出された遺構は平安時代末から室町時代まで存続した集落跡である。遺構の種類と数は、建物が三棟、

柵が一行、井戸が四基、土坑が一五基、溝が一五条である。このうち木簡が出土したのは、井戸四からである。井戸四は直径一・二五m、深さ一・三八mを測る円形の素掘井戸である。

井戸四から出土した遺物は木簡二点のほか、完形の土師器皿、木錘三点、漆器皿二点、齋串三点、曲物片、板材などであり、時期は一四世紀前半頃とみられる。

他の遺構から出土した遺物には、瓦器（甕・碗・三足釜）、滑石製石鍋、温石、東播系須恵器（捏ね鉢・碗）、土師器（羽釜・皿）、同安窯系青磁（皿）、白磁（碗）、黒色土器などがある。

8 木簡の积文・内容

(1) 「<蘇民将来之子孫家門也」 152×34×5 032

(2) 「<蘇民」 120×34×4 039

(2)は表面が腐蝕しており、赤外線テレビカメラ装置によっても全文は判読不能であった。

(中村 弘)



(1)